

ISSJ ニュース

社会福祉法人日本国際社会事業団 (ISSJ)

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-10-2 御茶の水 K&K ビル 3F Tel: 03-5840-5711

特集 ルーツ探し — 養子縁組後の支援

自分がどこから来た誰なのかを考える際に、養子の中にはまだ見ぬ実親族のことを知りたいと思う人がいます。ルーツ探しとは自分探しの一環なのです。ISSJはこれまで、養子が実親族に再会したいと望んだときにあいだに入っ

て支援をしてきました。日本ではルーツ探しに関する支援のあり方の検討やルール作りも進んでいないのが現状です。ISSJでも養子や実親族のためになるルーツ探しについて、学ぶ機会があればと常々思っていました。

す。それに比べてイギリスでは委託後のケアに加え、養子が成人したときに直面するルーツ探しにもしっかりと取り組んでいます。その上、法整備もきちんとされ、養子がどこに行けば自分の養子縁組の書類を探すことができるのか、徹底して管理されていると聞いていたので、是非それらはこの機会に学び、日本でのルーツ探しの支援に活かせればと考えました。

イギリスでの研修

イギリスでは養子縁組や里親制度についての研究機関 BAAF (British Association for Adoption and Fostering) を始めとし、国際養子縁組を支援している団体 ICA (Intercountry Adoption Center) や、養子縁組後の支援を行っている団体 PAC-UK などを訪問し、それぞれの団体と意見交換をし、活動内容について学ぶことができました。特に BAAF

ではルーツ探しに関しての話を研修という形でじっくり聞くことができ、とても有益なものになりました。

イギリスで養子縁組の話をした時に、絶えず感じたことの一つに、イギリス人の贖罪の念があります。ISSJも過去に上映した映画、「オレンジと太陽」あなたを抱きしめる日まで」の中でも取り上げられました。イギリスには強制的な児童移民、また強制的な養子縁組の黒い歴史—国際養子として、また労働力として海外に送られたイギリス人の子どもたちや、宗教でタブーとされた時代に未婚で子どもを産んだイギリス人母たちの存在があります。今では実親の意思に反して養子縁組をするというのは信じられないことですが、その時代には実際に起きていた事実であり、この黒い歴史を振り返ると彼らへの申し訳なかったという思いが、イギリスでルーツ探しが

進んでいる理由、また現在国際養子縁組がイギリスであまり盛んでない理由につながっているのではと感じました。

更に、養子縁組が日本と比べるとオープンに話されていることに気が付きました。BAAFのある職員は、自分が要保護児童として養子縁組されたことや、実際にFacebookを使って母親と会ったことがあるという実体験を話してくれました。彼女自身はソーシャルワーカーではないので他の人にはアドバイスができない、またFacebookなどで探すことは勧められないことわりを入れた上で、母親に会えたのは良かったが、現在はあまり話していないと教えてくれました。イギリスに滞在中にたまたま読んだ新聞にも養子縁組の記事が載っており、社会の関心の高さを感じました。

今回の研修では、ソーシャルワーカーの裁量や法的知識、また研究などのエビデンス(証拠)に基づいた支援方法なども考えさせられたテーマです。イギリスのソーシャルワーカーと直接会って話すのは初めてでしたが、どのソーシャルワーカーも知識と経験に裏づけされた自信に溢れていました。イギリスではソーシャルワーカーは専門職として認識さ

れているため、どの人も経験があり、また新しい知識を入れるのにも余念がないのです。

勉強会について

このイギリスで学んだことを他の養子縁組あつせん団体にも知ってもらい、また情報交換ができたらと、五月二二日には小規模なルート探しの勉強会を開催しました。主に民間のあつせん団体の関係者など、二〇名以上の参加がありました。

第一部ではイギリスでの取り組みとISSJの取り組みなどを報告し、活発な意見交換ができました。関係機関の方が大半だったので、報告では主に養子と実親族に対してのカウンセリングやルート探しのリスクについて話し合いました。具体的に、実親族に最初のコンタクトをする際にどんなことに注意したらよいか、またSNSを使ったルート探しの危険性についても参加者と話し合いました。会場からは「ISSJがどうやって情報管理しているか学べ、参考になった」「それぞれの支援機関の話が聞けてよかった」などの声が聞かれました。

第二部では養子として育ったグレン・ワカイさんをハワイから招き、ゲストスピーカー

として彼自身の

養子縁組体験とルート探しについて話してもらいました。

ワカイさんは日本で生まれましたが、四五年ほど前にISSJを通じてハワイに住む日系のアメリカ

人養親と養子縁組されました。昨年、ワカイさんからISSJにルート探しの依頼があり、実母に連絡を取りました。ワカイさんは事前に、実母からの連絡が返って来ない可能性があることについてカウンセリングをしていました。それは、これまでのISSJの経験の中で、実母の心の準備に時間がかかることを知っていたからです。実際、養子の側が再会したいと望んでいても、実母と再会できるケースは数少ないのが事実です。しかし驚いたことに、ワカイさんの実母の島袋さんからはすぐに返事が届き、二人はそれから数ヶ月後、実に四七年ぶりに再会することが



勉強会の様子

できたのです。

勉強会の当日、急遽島袋さんが沖縄から駆けつけてくださることになり、会場ではそれぞれの思いについてお話を聞くことができました。参加者のアンケートでは、「心が揺さぶられる実体験の話だった」「実親から直接話が聞けてよかった」「養子の生んでくれてありがとうという言葉と、実母のごめんなさいという言葉が印象に残った」などの声が聞かれました。更に、この再会の話聞いた朝日新聞の記者が、二人の再会についての記事を書いてくださり、新聞（二〇一五年七月四日夕刊）にもこの再会の話が掲載されました。



再会を果たしたワカイさん親子

一生向き合っていくプロセス

ワカイさん親子は幸せな再会を果たすことができたが、現実の支援の現場では、関係者の死や様々なことが障壁となって、再会にたどり着くケースは多くありません。ある養子は、実母に連絡を取りたいとルーツ探しを始めましたが、皮肉にも探し始めた数日後に実母が亡くなってしまったことを知りました。その時の悲しみを、こう語っています。「実母が亡くなっていったという知らせは非常に悲しいものでした。もっと早く探していればとひたすら残念に思います。実母には、私が元気にしていても彼女のことを考えていたと、ただ知らせたかったです。現実を否定している自分がいます。頭の中をぐるぐると色々なことが回っています。実母には一度も会ったことがありませんが、とても寂しいです」

支援者として感じるのは、養子や実親族の幸せな部分にだけ目を向けるのではなく、彼らの悲しみや怒り、不満に耳を傾け、共感し、支えることの大切さです。ルーツ探しに限ったことではありませんが、養子縁組の当事者の中には悲しみや喪失感を抱え

ながら生きていく人がいます。子どもの成長を見られないことで喪失感を抱える実親

もいますし、もしかしたら自分捨てられたのではないかと大人になっても不安を抱えている養子もいます。今後もISSJでは養子縁組後の支援に力を入れていきたいと思えます。それは、養子縁組が決して、子どもを委託したら終わりという支援事業ではないからです。養子縁組の当事者にとって、また親族にとって、養子縁組の事実というのは一生向き合っていくかないといけないプロセスなのです。

(田中)

イギリスでの研修・追記

法で守られたルーツ探し

現在、イギリスではコンタクトレジスターと呼ばれるシステムができ、そこから養子縁組の情報を集めること、また養子や実親族がそれぞれからの連絡を拒否する意思表示ができるようになりました。2002年の法改正では、必ずソーシャルワーカーがルーツ探しに関わることが明文化され、養子や実親族へのカウンセリングが大切だということが浸透していると感じます。2005年以降にマッチングされた養子縁組のルーツ探しは自分で情報を集める前に、養子縁組あっせん団体に当時の情報を直接聞くようにと決まっています。これは複雑化した現代の養子縁組の中で養子と実親族の双方を守る手段だといえます。

***** ISSJの今の活動を、少しご紹介いたします *****

ISSJ NOW

国際養子縁組の援助

(公益財団法人JKA補助事業)

今年八月、まもなく四歳になる Aくんは日本で暮らすアメリカ人の家族に迎えられました。Aくんはこれまで乳児院で生活を送ってきましたが、Aくんには家庭のなかで育ってほしいという児童相談所や乳児院の願いから、ISSJに連絡が入り国際養子縁組を検討することとなりました。

ISSJでは、Aくんを迎える家族としてアメリカ人一家とマッチングを行いました。Aくんは初めてのことに對して慎重で無口になる傾向があったのですが、面会前に家族から送られた手紙やおもちゃを嬉しそうに持ち歩き、初日は笑顔での対面となりました。

家族とAくんの交流中、家族は毎日乳児院を訪ねました。ある日、Aくんの担当保育士さんとこれから会えなくなると知ったAくんは、ずっと養父の膝の上ののって泣いていました。それだけ保育士さんと愛着関係が結べているのだと家族も私たちも知ることができました。養親一家はAくんを家族の一員として温かく受け入れ、乳児院でのお別れのときはAくんは涙も見せずに笑顔での出発となりました。

(榎本)

難民申請者への援助

(国連難民高等弁務官事務所委託事業)

二〇一五年に日本で難民申請した人は五千人、過去最多となりました。また、難民として認められた人は十一人、人道配慮による在留許可を得た人は一二二人でした。

ISSJは難民申請者や在留許可を得た定住者の相談にのり、病院や区役所に同行したり、家庭訪問などを行っています。また、申請中であっても在留許可がないために入国管理局の施設へ収容されてしまった人々を訪問し、カウンセリングを行っています。生活の苦しさのみならず、障害や病気に苦しむ人、先の見えない不安からうつになってしまいう人、在留許可を得ても自立の道筋が見えない人など、相談は多岐に渡ります。

今年はずでに二〇〇件以上の相談がありました。ソーシャルワーカーは一人ひとりの訴えに真摯に耳を傾け、支援を続けています。

(石川)

本国から家族を日本へよびよせた難民の方から、お手紙が届きました。

*Nous voulons exprimer
toute notre gratitude à ISSJ
pour tout leur soutien.
Dès l'arrivée de ma famille
au Japon, l'aide d'ISSJ nous
a été d'un grand apport et nous
a permis de commencer une nouvelle
vie avec beaucoup plus de sérénité
et d'optimisme.*

(訳)

ISSJのおかげで日本で落ちついた、かつ希望に満ちた生活がスタートできました。ISSJに支援いただき感謝申し上げます。

KOTEZ & YANCY チャリティライブ報告

6月20日の世界難民の日を前に、6月12日、タカギクラヴィア松涛サロンにて、在日難民支援を目的としたKotez & Yancyによるチャリティライブを開催いたしました。当日はノリノリの音楽に合わせて会場の子どもたちがダンスを披露。在日難民の方々にも楽しんでいただけました。



皆様からのご協力金は、10,173円でした。参加者の皆様、タカギクラヴィアの皆様、そしてKotez & Yancy、ご協力ありがとうございました。

第70回ISSJチャリティ映画会バザー報告



6月17日、ISSJ催物委員会により運営されて35年目、第70回を迎えたチャリティ映画会。養子縁組や家族との再会がテーマとしてストーリーに織り込まれた作品、『あなたを抱きしめる日まで』を上映いたしました。

同時開催のバザーでは多くのボランティアに支えられ、フェアトレード製品や食品、衣類、様々な企業・団体より寄付していただいた品物を販売いたしました。皆様からいただいたご支援は、参加券・バザー売上・募金・ご寄付をあわせて2,926,810円でした。心より感謝申し上げます。

補助金・助成事業完了のご報告

この度、平成二六年度、公益財団法人 JKA、公益財団法人日本財団、一般財団法人日本メイソン財団、独立行政法人福祉医療機構、公益財団法人笹川平和財団、公益財団法人大阪コミュニティ財団、一般財団法人ひろしま・祈りの石国際教育交流財団、東京都共同募金会からの補助金、助成金を受けて事業が完了したので、お知らせいたします。

平成二六年三月完了

■ JKA

「子どもが幸せに暮らせる社会を創る活動」

■ 日本財団

「国境を越えた未成年者の家族再会援助」

■ 日本メイソン財団

「無国籍の子どもの国籍取得費、医療費、難民申請者支援」

■ 福祉医療機構

「国際養子縁組に関する情報提供・研修事業」

■ 笹川平和財団

「難民保護の国際的な潮流に関する基礎調査」

■ 大阪コミュニティ財団

「カンボジア・ブノンペンにおける子どもたちへの給食付識字教育」

■ ひろしま・祈りの石国際教育交流財団

「識字教育教材購入・教室整備事業」

■ 東京都共同募金会

「日本在住の外国籍児童への緊急援助費」

インターンから見た ISSJ



六月からインターン生として活動している玉川朝恵と申します。大学院で社会学を専攻しています。

これまで難民への支援といっても居住や就労など比較的制度的な面に関心がありました。しかし、ISSJでは「心身のケア」を中心に行っており、自国を逃れてきた方々、逃れた地でも収容され心の休まらない方々、慣れない土地で暮らす方々のことを考えた時に、いかに「心身のケア」が大切かを痛感し、ISSJの活動に非常に興味を持ちました。いつも活動しやすい環境をつくって下さり、様々な機会を与えて下さるISSJの皆様へ感謝をしながら、微力ではありますが尽力させて頂きます。よろしくお願致します。

第71回 ISSJ チャリティ映画会・バザーのご案内

『チョコレートドーナツ』

(原題: Any Day Now)

2012年 / アメリカ映画 / 97分 / 英語

10月16日(金)

上映開始時間 ①11:00 ②15:00 ③19:00

*10時開場。10~19時バザー同時開催。

日本教育会館3階 一ツ橋ホール

参加券 1200円(全席自由・前売制)



実話に基づく物語。家族について、他人をいたわり愛することについて、社会的にマイノリティである LGBT、養子、障がい者を、私たちがどう見ているのかについて、見た人の心に一石を投じる映画です。当日は会場のホワイエで10時から19時まで、チャリティバザーを開催します。シルクスカーフなどアジアからのフェアトレード製品、食品、婦人衣類、ボランティアによる手作り品、よりの福祉作業所からの焼菓子も販売します。参加券お申し込みは ISSJ 事務所まで。神保町の岩波ホールやインターネット(イープラス)でもご購入できます。

スタッフ紹介

ソーシャルワーカー 榎本 裕子



今年6月から勤務しています。これまでは難民支援や、アフリカや東南アジアにて国際協力分野の仕事をしてきました。その中で、一人ひとりに向き合いながら社会の課題に取り組むソーシャルワーカーの仕事に関心をもち、帰国後は社会福祉の業務に従事してきました。この度、ISSJのソーシャルワーカーとして子どもと家族に関する国際福祉に携わる機会をいただき、とても嬉しく思っています。

現在は国際養子縁組関連業務を担当し、日々、国境を越えた「家族」について様々な想いに接しています。そうした想いに寄り添えるワーカーとしてお役に立てるよう、頑張りたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

ソーシャルワーカー 井上 由香梨



今年4月からISSJに勤務しております。オーストラリアの大学でソーシャルワークを専攻して資格を取得後、現地のNGOに就職し4年程難民申請者が難民認定を受けるまでの間支援するサポートセンターで働きました。日本とオーストラリアと比べると、日本社会ではいかに外国籍の人たちの立場が制度的に弱いものか、そういった人々を助けるリソースが少ないかということを感じています。支援団体としてできることが非常に限られている中、全ての制度的解決を目指すことは容易ではありませんが、一人ひとりが日本にいることに意義や希望を少しでも感じられることに貢献できるように日々精進していきたいと思っております。

ご支援ください

ISSJの活動は、個人や法人の会員の皆様からのご寄付や助成金によって支えられています。ご寄付は税制上の控除を受けることができます。

●会員として

年2回のニュースレター、事業報告書、イベント情報をお送りいたします。

個人・グループ会員 年1口：5,000円(何口でも)

団体会員 年1口：50,000円(何口でも)

●ご寄付

こんな時にご寄付をご検討ください。

お子さんやお孫さんが生まれた時
故人の遺志を尊重して

▶お振込先

・三菱東京UFJ銀行 中目黒支店 普通 0397932

・ゆうちょ銀行 00190-7-64911

加入者名 社会福祉法人日本国際社会事業団



ボランティア募集♪

映画会のためにボランティアとして関わっていただける方を募集しています。継続的にチャリティイベントの企画準備に関わっていただける方歓迎。

映画会当日のみの、バザー販売係ボランティアも募集中です。

編集後記

この度大きく形式を変えました。少しでも親しみやすく読みやすく、ISSJの活動をご紹介していけるよう、皆様のご意見ご感想を是非お聞かせください。(重藤)

大変興味深いテーマです。イギリスの専門家と意見交換ができ、刺激になりました。(田中)

ルーツ探しは大変興味深いテーマです。イギリスの専門家と意見交換ができ、刺激になりました。(田中)

インターカントリー第49号 2015年8月31日発行

発行：社会福祉法人 日本国際社会事業団

International Social Service Japan (ISSJ)

発行責任者：常務理事 大森邦子

発行所：〒113-0034 東京都文京区湯島 1-10-2

御茶の水K&Kビル3F

TEL: 03-5840-5711 (代表) FAX: 03-3868-0415

E-mail: issj@issj.org URL: www.issj.org



社会福祉法人日本国際社会事業団 (ISSJ) は、1952年に日米孤児救済合同委員会として発足しました。実親の養育を受けられない子どもを国籍の異なる養親家庭に委託する国際養子縁組、在日難民の相談支援など、時代の変化に伴う福祉ニーズの移り変わりに応じながら、国際ソーシャルワークの分野で活動しています。